

約4億円投資し、アクリル人造大理石浴槽生産能力を15%増強 今後も拡大が見込まれる 好調なシステムバス売り上げに対応

システムキッチン・バスを中心とした住宅設備機器メーカー・タカラスタンダード株式会社（本社：大阪市城東区、代表取締役社長：渡辺岳夫）は、約4億円を投資し、システムバスの主力工場である関東工場〈第一工場〉（千葉県八千代市）にアクリル人造大理石浴槽のライン増強を行います。これにより、アクリル人造大理石浴槽の生産能力は15%増となり、伸長するシステムバスの需要に対応してまいります。



（左：アクリル人造大理石浴槽の製造ライン／右：システムバス「グランSPA」）

■キッチンに次ぐ主力製品として売り上げを伸ばすシステムバス

タカラスタンダードは独自の「高品位ホーロー」を中心に、国内のキッチンシェアでNo.1を誇っています。一方、浴室の出荷台数も直近5年で約115%と大きく伸長。2022年8月に発売した、デザインや素材を幅広い選択肢の中からお選びいただけるシステムバス「グランSPA」もご好評をいただいています。中でも、アクリル人造大理石浴槽「キープクリーン浴槽」は前年比売り上げ1割増と多くの方にお選びいただいております。浴室シェア拡大においても重要な商材です。

今後の浴室部門のさらなる成長を見据え、この度、アクリル人造大理石浴槽を製造している関東工場〈第一工場〉の設備増強が決定しました。

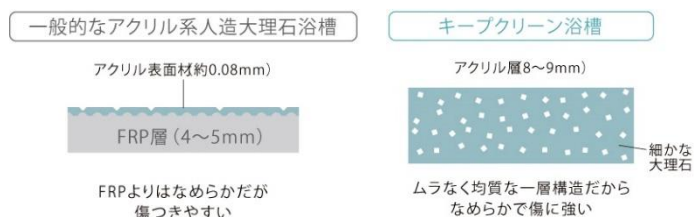
■アクリル樹脂を100%使用した「ピュアアクリル」の人造大理石

極めて高い耐久性と透明性を持つアクリル樹脂を使って製造される人造大理石は、発色性が良く、耐衝撃性や清掃性に優れているのが特長の一つ。人造大理石の中には、ポリエステル樹脂にアクリル成分を混ぜて「アクリル系人造大理石」と称しているものも多くありますが、タカラスタンダードでは、特長を最大限に生かすため、アクリル樹脂を100%使用した「ピュアアクリル」のアクリル人造大理石を製造しています。



（アクリル樹脂の原料タンク）

さらに、一般的なアクリル系人造大理石浴槽は、4～5mmのFRP層の上に約0.08mmのアクリル表面材を重ねた構造なのに対して、タカラスタンダードの「キープクリーン浴槽」は8～9mmのアクリルによるむらなく均一な一層構造。製法の違いから金型内で製品が硬化するまでの時間は長いものの、それゆえに傷に強く、肌に触れた瞬間に違いが分かる滑らかな表面に仕上がるのが特徴です。



■自動化による生産効率化も推進



(樹脂成型品の画像検査装置)

関東工場では、樹脂成型品の画像検査装置をはじめ、デジタルピッキングシステム導入など品質の安定と生産の効率化にも取り組んでいます。

また人造大理石製造ラインで使用する熱源を電気よりも熱効率の良いガスボイラー化することでエネルギーの効率化を図っています。今後もロボット導入などによる生産効率化にも取り組み、生産設備増強と合わせて需要増に対応していきます。

タカラスタンダードはこれからも工場における作業の効率化と生産能力の強化を図り、より多くの方に暮らしを快適にする商品をお届けできるよう努めてまいります。

【参考資料】 関東工場〈第一工場〉概要

▶所在地

千葉県八千代市上高野 1807 番地の 4

▶敷地面積

15,792 ㎡

▶延床面積

8,024 ㎡

▶主要生産品目

アクリル人造大理石浴槽、浴室人造大理石カウンター



<タカラスタンダードとは>

1912年創業。「水まわりって、大切だから」をブランドメッセージに、独自の「高品位ホーロー」技術を活かしたシステムキッチン・バスを中心とした住宅設備機器を製造販売。より高度化、多様化、複合化するお客さまのニーズにお応えするホーロー技術のリーディングカンパニーとして、また住宅設備機器のトップメーカーとして、次世代を担う新たなホーローの可能性を追求し、快適な暮らしの創造を目指しています。

[設立：1912年5月30日（創業110年） / 売上高<連結>：2,115億円（2021年度） / 従業員数<連結>：6,298名（2022年3月末時点）]